

特別展
「子ども／おもちゃの博覧会」

明治時代以降における日本の社会の大きな変化は、その時々の子どものありようや人びとの子ども観に影響を与えました。本展では、江戸時代から戦後のさまざまな玩具をつづい、子どもや子どもをめぐる社会の変遷とその意味を探ります。

会期 5月28日(火)まで
会場 特別展示場



福わらい

■関連イベント
ワークショップ
「きり絵で楽しむ日本の文様」
日本に伝わってきた「紋きり遊び」を体験いただけます。

日時 4月6日(土)11時～11時40分、
12時～12時40分、13時～13時40分、
14時～14時40分(各回40分)
会場 本館エントランスホール
※申込不要、各回先着12名、参加無料
※参加対象者3歳以上、未就学児は保護者同伴でご参加ください。
※みんなくミュージアムパートナーズ(MM P)による催しです。

企画展
「旅する楽器——南アジア、弦の響き」

南アジアの弦楽器は、中央アジアや西アジアから伝えられた楽器が改良され定着したものが多く、そのいくつかは南アジアでの変容を経て東南アジア、東アジアにも伝えられました。楽器が広大な地域を旅して伝播していく様を知ることで、ユーラシアにおける長期的な文化交流を実感してください。

会期 5月7日(火)まで
会場 本館企画展示場



タゴール家に伝えられた
1907年製のシタール

ワークショップ
「かざってポン！オセアニアのかざり」

世界には貝がらやイノシシの牙をつかったかざりや仮面があります。このワークショップ

プでは、オセアニアの人びとがつくったかざりを観察したり、くららについて学んだあと、布バッグに貝がらやイノシシの牙のスタンブをかざりつけをします。

日時 4月6日(土)11時～11時45分、
13時～13時45分、14時30分～15時15分(各回45分)
会場 本館ナビひろば、オセアニア展示場
※当日随時受付、各回先着15名、
参加費500円(別途要展示観覧券)
※未就学児は保護者同伴でご参加ください。

ワークショップ
「みてふれてつくって 世界のピース」

アフリカでつくられたピース製の帽子や首飾りなどの装飾品にふれたり、紙をつかったペーパーピースづくりを体験できます。

日時 4月26日(金)、27日(土)
10時～17時最終受付16時30分
会場 本館エントランスホール
※当日随時受付、参加無料(ただし、本館展示場を鑑覧する場合は、展示観覧券が必要です)。

みんなく春の遠足・校外学習事前見学&ガイダンス

春の遠足・校外学習にむけて、事前見学に来館される学校団体の先生方を対象としたガイダンスを開催します。

日時 4月4日(木)、5日(金)
14時～16時30分(13時50分受付開始)
会場 本館第5セミナー室
※参加無料
ホームページから参加申込書をダウンロードし、必要事項を記入の上、FAXにてお送りください。

●みんなく無料シャトルバスのご案内
大阪モノレール「万博記念公園駅」とみんなくの間の直通送迎バスを特別展「子ども／おもちゃの博覧会」の会期中に運行します。

運行日 5月28日(火)までの土曜・日曜・祝日
1日11往復、所要時間10分、無料
運休日 平日、4月27日(土)～5月1日(水)
※万博記念公園でイベントが開催される場合は臨時に運休することがあります。詳細は本館ホームページをご覧ください。

国立民族学博物館・国立科学博物館 共同企画展
「ピース——自然をつなぐ、世界をつなぐ」
会期 4月9日(火)～6月16日(日)
会場 国立科学博物館 日本館1階
企画展示室(東京・上野)
休館日 月曜日、5月7日(火)
[ただし、4月29日(月)・祝、5月6日(月)休、6月10日(月)は開館]
主催 国立科学博物館
国立民族学博物館

※各イベントについてくわしくはみんなくホームページをご覧ください。
※電話でのお問い合わせの受付時間は、9時～17時(土日祝を除く)です。

みんなくゼミナール

日時 4月20日(土)13時30分～15時(13時開場)

会場 本館セミナー室ほか
参加費 無料
※参加券を当日12時30分から本館1階案内所前にて配布



印刷ごっこの道具
「教育玩具 文明印刷遊」

第490回 教育玩具とその時代——子ども・おもちゃ・教育

講師 是澤博昭(大妻女子大学 准教授)
笹原亮二(本館 教授)

特別展「子ども／おもちゃの博覧会」は、子どもをめぐる社会の変遷をテーマのひとつにしています。ここでは近代教育の対象として、幼児を含む子どもを全体を意識し始める過程を玩具から振り返ります。

みんなくウィークエンド・サロン
研究者と話そう

本館の研究者が「現在取り組んでいる研究」「調査している地域(国)の最新情報」「みんなくへの展示資料」について分かりやすくお話しします。

4月7日(日)14時30分～15時 本館企画展示場
南アジアの弦楽器

話者 寺田吉孝(本館 教授)

4月14日(日)14時30分～15時 特別展示場
戦後のおもちゃ

話者 日高真吾(本館 教授)

4月21日(日)14時30分～15時 本館ナビひろば
認知革命とピース

話者 池谷和信(本館 教授)

4月28日(日)14時30分～15時15分 本館ナビひろば
どいつの言葉は変わるのか

話者 吉岡乾(本館 准教授)
※申込不要、参加無料(要展示観覧券)

刊行物紹介

■山本 紀夫 編
『熱帯高地の世界——「高地文明」の発見に向けて』
ナカニシヤ出版 6,800円(税別)

この地球上には熱帯高地と呼ばれる地域がある。メキシコ中央高原、中央アンデス高地、ヒマラヤ・チベット高地、アビシニア高原などである。ここでは古くから多数の人びとが暮らし、都市を築き、高度な文明さえ生み出した。本書では、これらの高地を訪ね、人間と熱帯高地との関係を明らかにしようとする。



■是澤 博昭、日高 真吾 編
『子どもたちの文化史——玩具にみる日本の近代』
臨川書店 4,300円(税別)

玩具に映しだされた大人と子どもの対話を読み解き、近代日本の新たな社会像を提示する。本館共同研究「モノにみる近代日本の子どもの文化と社会の総合的研究——国立民族学博物館所蔵多田コレクションを中心に」及び基幹研究「日本列島における地域文化の再発見とその表象システムの構築」の成果を書籍化。



■嶺重 慎、広瀬 浩二郎、村田 淳 編
『知のスイッチ——「障害」からはじまるリベラルアーツ』
岩波書店 2,100円(税別)

社会の多数派が「あたりまえ」と思うことでも、うまくできなかつたり、まったくできなかつたりする人がいる。「あたりまえ」ができないとき、人は立ち止まる。本書は、「障害」をキーワードに、学問と社会の「あたりまえ」を問い直す試みである。



友の会

国立民族学博物館友の会 電話 06-6877-8893 (9時～17時、土日祝を除く) FAX 06-6878-3716
https://www.senri-f.or.jp/minpaku_associates/ E-mail minpakuotomo@senri-f.or.jp

友の会講演会

会場 本館第5セミナー室(当日先着順・定員96名)
※会員無料(会員証提示)、一般500円

第488回 5月4日(土)祝 13時30分～14時40分

「特別展「子ども／おもちゃの博覧会」関連」
紙人形と着せ替え遊び——遊ぶ身体と記憶
講師 森下みさ子(白百合女子大学 教授)

世代を越えて多くの女性が遊んだことのある着せ替え人形。千代紙の姉妹人形から紙の着せ替え人形を経てリ力ちゃん、そして着せ替えゲームにいたるまで、女の子たちが夢中にさせてきた着せ替え遊びには、どのような魅力が潜んでいるのでしょうか。また、その変化には何が投影されているのでしょうか。遊びとともにある玩具を、遊ぶ子どもの身体感受性に注目しながら、普遍性と可変性の両面から解き明かしていきたいと思ひます。

※講演会終了後、講師の案内のもと、特別展の見学会をおこないます(40分/会員証もしくは展示観覧券が必要)。

第81回体験セミナー
琵琶湖と生きる——刺し網漁とモンドリ漁
日程 5月11日(土)～12日(日) 【申込締切: 4月10日(水)】

第93回民族学研修の旅
インドネシア東部ヌサトゥンガラ諸島の住まいを訪ねる
日程 6月7日(金)～18日(火) 【申込締切: 4月26日(金)】

国立科学博物館(東京・上野公園)で開催!
トークイベント

「ピトつてなんだ??」
——ホモ・サピエンスの誕生から文化の獲得まで」

話者 篠田謙一(国立科学博物館副館長)
池谷和信(本館 教授)

日時 5月25日(土)14時～16時
会場 国立科学博物館 日本館2階 講堂
主催 国立科学博物館、千里文化財団

※要事前申込(先着100名)
※聴講は無料ですが、常設展示入館料が必要です。
※左記受付フォームよりお申し込みください。

【申込期間: 4月1日(日)～5月10日(金)】
https://www.senri-f.or.jp/homo_sapiens/2019/04/01/

